

山本栄一博士ご退職記念号
刊行に寄せて

山本栄一関西学院大学名誉教授は、1966年4月に関西学院大学経済学部専任助手に採用されたあと専任講師、助教授を経て1979年4月に教授に就任され、2008年3月をもって定年退職を迎えられました。教員、研究者としては42年間、さらに学部と大学院の学生時代を含めるとちょうど50年、半世紀を関西学院大学で過ごされたこととなります。

その間、まず専攻分野である財政学研究において、公共財理論を基礎とした財政学とりわけ租税負担による理論を開拓され、その成果は『租税政策の理論』（有斐閣、1975年）および『都市の財政負担』（有斐閣、1989年）としてまとめられ、その後の財政学研究に多大な影響を与えらるとともに、日本財政学会、日本地方財政学会の理事として、斯界の研究の発展に指導的な役割を果たされました。さらに財政学研究から得られた深い学識と広い視野は、大学や学界にとどまらず、尼崎市教育委員会委員をはじめとして、教授が参加された自治体の審議会や委員会を通して行政にも活かされ、社会的にも多大の貢献をなされました。

教育においても、専門的な学識はいうにおよばず社会科学全般にわたる幅広い知識やキリスト者としての高い倫理的な人格にもとづいた識見によって、包容力ある教育を長年にわたって遂行され、学部学生や大学院学生に深い感化をおよぼされました。さらに大学教育の現状に対する危惧を機会あるごとに表明され、教養教育の重要性を提言され続けてこられました。そうした教育上の独自の工夫にもとづいた提言や実践は、『おそろおそろの大学論－「社会科学入門」の入門』（関西学院大学出版会、2000年、改題増補版『大学への招待－「社会科学入門」での大学論』関西学院大学出版会、2003年）、『経済学教育と研究の現場－関西学院大学経済学部の経験』（関西学院大学出版会、2008年）として上梓されました。それらは頂門の一針として後進の者に受け継がれるでしょう。またキリスト者としての立場を経済学教育に活かすことを試みられ、その授業記録は『問いかける聖書と経済－経済と経済学を聖書によって読み解く』（関西学院大学出版会、2007年）となりました。わが国の

大学でも稀な実践例として高く評価されています。大学院では現在第一線で活躍中の気鋭の財政研究者を多く育てられました。

大学の行政面では、経済学部長・経済学研究科委員長（1993～96）をはじめとして、学院広報委員、宗教活動委員会委員長、セミナーハウス館長、学院史編纂室室長を歴任され、さらに学院全体の経営を担う理事会常任理事（2002～05）の重職を務められました。関西学院大学出版会の第二代の理事長として、発足後の出版会も支えられました。特筆すべき貢献は、現在経済学部がおこなっている教育上のさまざまな試みを学部長時代に着手され、その後の学部の改革路線の基本方向を定められたことです。教育や研究には劇的な効果をあげる特効薬はありませんが、これからも教授の示された方向を尊重しながら、地道な努力を続けていきたいと思っています。

教授はまた2007年まで神戸改革派神学校の理事長を務められるとともに、日本国際ギデオン協会尼崎支部の創設以来のメンバーとして聖書の配布事業にも努力されてきました。

このたびの山本栄一名誉教授のご退職にあたり、長年の研究・教育・大学行政への多大のご貢献に経済学部としての謝意を表すために、この記念号を発行することになりました。この趣旨に賛同してご寄稿いただいた学部内外の執筆者の方々に、また編集の労をおとりいただいた『経済学論究』編集委員のみなさんと経済学部事務長とに厚くお礼を申し上げます。

山本名誉教授のご健康をこころから祈念いたします。

2008年5月15日

経済学部長

竹 本 洋